

みんなの 町議会

広島県
じんせきこうげんちょう
神石高原町



かわいい元気な子どもたち（豊松保育所）

第34号

平成25年4月15日

■予算はどうなっとるん	4
■こんなことが決まったよ	6
■あなたの声を町政に	8
■あいやあどうなったん?	...	22
■第1回議会報告会	23

の創出 — 企(起)業家支援 —



3月定例会は、3月4日から22日まで開かれ、町長の施政方針および平成25年度当初予算など63件の議案を上程し、慎重審議した結果、いずれも原案のとおり可決しました。

5項目 最重要施策

若者が夢と希望がもてる

まちづくりへ

平成25年度予算大綱

平成25年度予算大綱では、「若者が夢と希望を持ち、安心して子育てできる環境づくりの実現に向け、雇用の創出と働く場所の確保」を最重要課題と位置付けている。

定住対策・企(起)業家支援、過疎・高齢者対策、子育て支援、農林業振興対策など、住民が夢と希望を持ち、安心して暮らせる環境づくりに取り組む予算となっています。

1、雇用の確保

- ・ 企(起)業家支援
- ・ 中小企業の育成

2、地域資源の活用

- ・ 農業の6次産業化推進
- ・ 養蜂、ナマズ、赤と黒のプロジェクト
- ・ 森林セラピー・観光開発
- ・ 新商品開発・販路拡大
- ・ トマト団地整備構想

3、定住者確保

- ・ 井関定住団地の追加整備販売

4、地域活性化支援

- ・ 地域おこし協力隊の増員

5、教育環境の充実

- ・ 神石高原中学校の教育環境整備
- ・ 県立油木高校支援

主要な施策

高原の特徴を生かした快適で

魅力に満ちたまちづくり

・ 買い物困難者支援、安否確認ハガキ事業

・ 消防積載車の更新、耐震防火水槽設置、AED配備

・ 保険・医療・福祉が充実した

安心して暮らせるまちづくり

・ 高齢者肺炎球菌ワクチンなどの接種や妊婦を対象とした歯科検診の無料化

・ 第3子からの保育料半額

・ 自然と歴史を生かした

教育・文化のまちづくり

・ スクールバス6台購入、テニスコートなど整備

・ 全小学校5年生を対象に児童間交流

・ 国際都市姉妹縁組の取り組み

・ 地域資源を生かした活力ある

産業と交流のまちづくり

・ 産直市場の運営見直し、コーディネートターの活用

・ 駆除用花火での猿追い払い事業

・ 交通・情報通信基盤の整った

一体感あふれるまちづくり

・ 町道高蓋上下線、日の郷線改良工事

・ 町道の草刈りや支障木伐採に対する支援

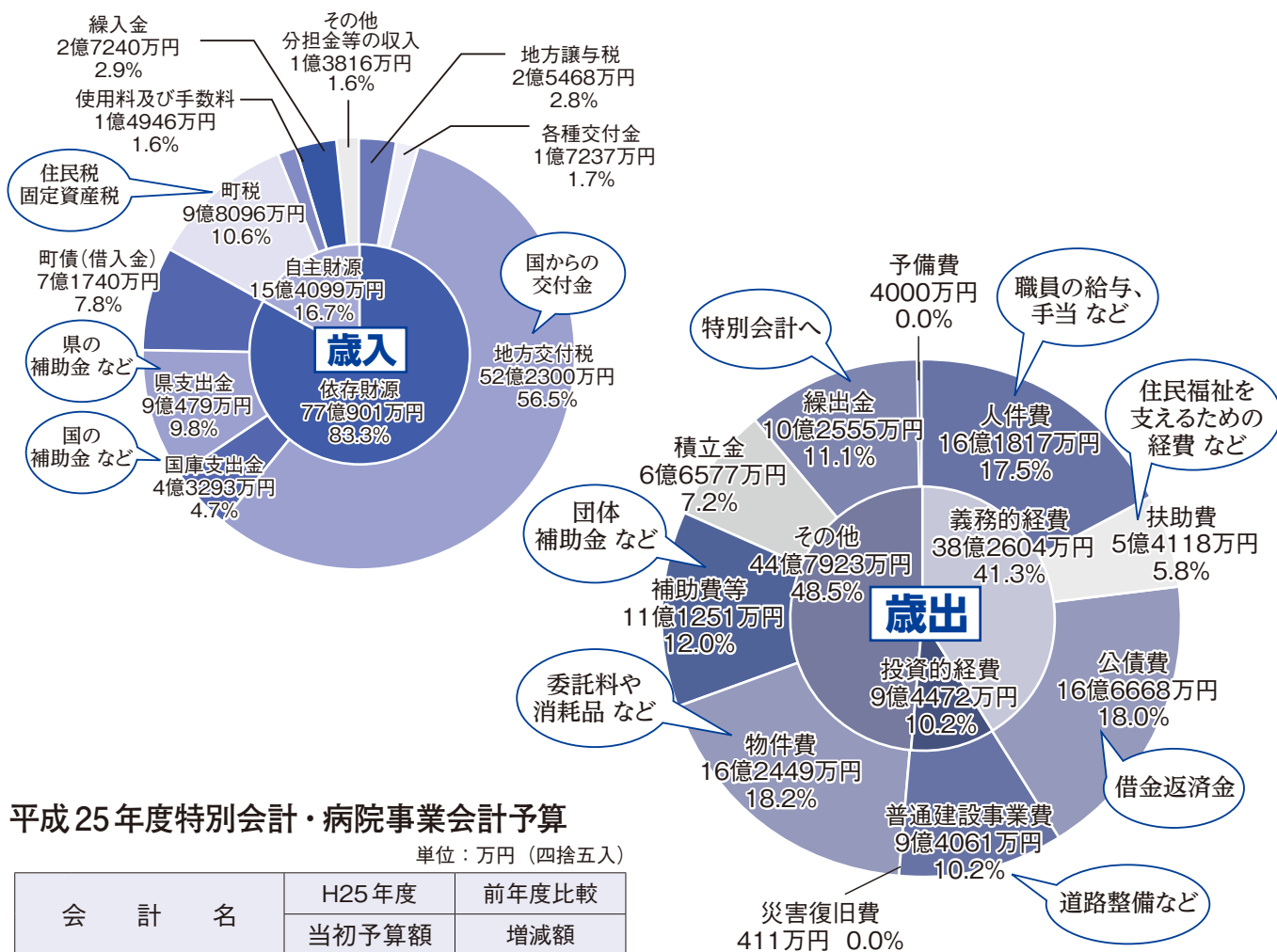


傍聴席から見た執行者側

92億5000万円 雇用

前年比 4.5%減

平成25年度 一般会計 歳入・歳出予算比較表



平成25年度特別会計・病院事業会計予算

単位：万円（四捨五入）

会計名	H25年度	前年度比較	
	当初予算額	増減額	
特別会計	国民健康保険	11億6400	990
	後期高齢者医療	4億1500	1130
	介護保険	19億1060	720
	簡易水道事業	1億8660	△1億6540
	飲料水供設事業	3700	290
	農業集落排水事業	2億5000	310
	分収育林事業	10	0
	総合開発事業	4920	2590
	特別会計計	40億2500	
病院事業会計	2億180	1980	
合計	42億1430	△1億3710	



仙養ドッグラン 池の改修完成

予算はどくなつとるん

予算特別委員会

予算特別委員会は、4日間の日程で、平成25年度当初予算を審議し、賛成多数により原案のとおり了承すべきものと決定しました。自由な質疑や意見の陳述、討論が活発に行われました。

消防車の更新は

丸山議員 消防車両は、20年で更新しているが、使用できる車両は、引き続き使用してはどうか。

前原課長 現段階では、計画的に更新している。

村上議員

消防自動車は、将来的な消防団の機構改革を見通しての購入なのか。また防火水槽設置箇所は。

前原課長 計画的に導入している。今年度は、油木と神石地区の2カ所を予定している。



消防小型ポンプ積載車

ふれあい号などの見直しを

橋本議員 生活交通機関確保事業は、年ごと

に利用者が減少傾向にある。見直しを図るべきでは。 **町長** 公共交通協議会で、より利用しやすいように

運行形態、時間帯など検討していきたい。

横尾議員 降雪時の500mの条件は大変である。

冬季だけでもタクシーの配布はできないか。

町長 総合的に検討したい。

ふるさとふれあい事業の継続を

橋本議員 平成26年度以降も継続する必要があるのでは。

町長 25年度で「協働のまちづくり」の観点から検討し方向性を出す。

地域おこし協力隊増員は必要か。

丸山議員 地域おこし協力隊4人の追加募集はなぜ必要なのか。

町長 第一に都市部の若者の定住。第二に外部からの視点で若者のパワーを生かし地域の活性化を目指す。

歴史の教訓に学べ

片山議員 小畑(小島)市場の大火の教訓に学び宮谷川砂防ダムを多目的ダムへと舵をきれ。

町長 県との協議において変更へのかすかな希望は持っている。

片山議員

産業誘致の条件である水源確保の開発支援は尊重すべきではないのか。

町長 行政の継承性は当然で、誠実に対応する。

産直市場 経営統合は

松本議員 産直市場の統合に向けては、出荷者協議会の統合や、従業員の労働条件の統一など多くの課題がある。統合より、それぞれの特徴を活かした経営をした方が良いと思うが。

町長 議会からの要望もあり、統合は必要だ。産直市場の一本化に向け、社長になる人材を募集したところ、資質のある1人の応募があった。

ナマズ、養蜂産業の具体策は

赤木議員 ナマズの養殖や養蜂による新産業の育成の具体案が見えてこない。

農商工連携、産官学の連携も必要である。プロジェクトを立ち上げる必要があるのでは。

町長 今はまだ研究段階であり、予算には計上し

てない。

さらに進んだ段階で予算をつけていきたい。

行政としては商工会と連携してなんとしても神石高原の特産・名物としていきたい。産業課で情報発信を行っている。

町立病院の利用促進を

久保田議員 町立病院の指定管理先が、このままでは不安だ。見直しを行うのか。

我々を含めみんなで町民の利用促進を呼びかけるべきでは。

町長 福山市医師会の推薦があり決定したが、間違いがあったとは思わない。医師の派遣を各方面に要請している。

見直しは早い時期に考えをまとめたい。

利用促進は、今まで以上に啓発していく。

自然環境の保全を

寄定議員 産廃施設

からの煙や臭気が自然環境を破壊し、住民生活に深刻な影響を及ぼしている。

県と連携し、より厳正なる指導を徹底すべきでは。

臭気測定の経過と成果

は。

町長 県に対して改善を要望している。

なかなか困難な現状ではあるが、集大成として積み残しのないよう自然環境保全に努力をする。

平成22年10月より臭気指数規制を導入している。当該企業の施設も測定を実施している。

学校給食のアレルギー対策は

横山議員 今現在どの

程度の地元産の米や野菜が使われているのか。

町内の小中学校ではこ

のようなアレルギーの子どもへの把握はできているのか。

教育長 米はすべて地元

産。野菜は、産直市場や農業生産法人、地元商店を、できる限り活用している。今後を増やしていく予定である。

特産物を使った神石高原ランチデーを実施している。

アレルギーをもつ子どもへの保護者への確認と医師の指示書に基づいて調理を行っている。

調理から児童の口に入るまで組織的に細心の注意を払って対応している。



予算特別委員会

予算特別委員会 委員長報告要旨

藤田委員長

3月4日の本会議において、付託された「平成25年度神石高原町一般会計予算」など、10件にわたり、町長はじめ関係課長などの出席を求め、活発な審議のもと、慎重審議を行った。審査結果については、全議案ともいずれも原案のとおり了承すべきものと決定した。審査過程で出された質疑、意見要望などの主要なものを報告する。

①生活交通機関確保事業

事業成果と課題を点検し、利用者の立場に立った見直しが必要との意見があった。

②環境保全

大矢地区の環境問題解消について、県との連携を密にし、厳格な指導の徹底の要望が出された。

③産直市場の運営

生産者の所得向上とともに消費者のニーズに対応できる運営について、早急なる検討が必要である。

④町立病院の運営

指定管理の在り方の検討が必要であること。また、利用者の利便性向上施策も必要である。

⑤保育所の指定管理

多様化する保護者の要望に答えられる施設とするため、指定管理者制度の十分な検討が必要である。

⑥地域おこし協力隊・集落支援員

集落支援員の活動の充実が必要であり、協力隊員の追加募集に当たり、意欲ある若者が定住可能となる配慮が望まれる。

こんなことが決まったよ

全会一致

条例制定

8件

- ・ 神石高原町立中学校寄宿舎設置
- ・ 統合中学校の開校に伴い、新たに神石高原中学校高原寮を設置
- ・ 地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律に関する法律の施行

- ① 水道法施行条例
- ② 一般廃棄物処理施設の技術管理者の資格基準
- ③ 道路構造の技術基準
- ④ 町道の道路標識寸法を定める条例
- ⑤ 町営住宅などの整備基準
- ⑥ 指定地域等密着型サービスの従事者及び員数に関する基準
- ⑦ 指定地域等密着型介護予防サービスの従事者および員数に関する基準

条例の一部改正

18件

- ・ 情報公開条例
- ・ 給与に関する条例
- ・ 神石高原町消防団員の定員変更「760人」を「700人」に改める。
- ・ 飲料水供給施設
- ・ 畑地区飲料水供給施設を追加
- ・ 道路占用料徴収条例
- ・ 町営住宅設置及び管理条例
- ・ 町営土地改良事業の経費の賦課徴収に関する
- ・ 託児所設置及び管理条例

- ・ 高齢者グループホーム設置及び管理条例
- ・ 障害程度区分認定審査会の委員の定数を定める条例
- ・ 乳幼児医療費支給条例の一部を改正
- ・ 学校設置条例

- ・ 油木、神石、豊松の中学校の記載を「神石高原中学校」に改める。
- ・ シルトピアセンター・町民庭球場・町立グラウンドの設置及び管理条例
- ・ 町議会委員会条例の一部を改正
- ・ 広報広聴調査特別委員会を常任委員会に

- ・ 議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例
- ・ 議会会議規則

指定管理者の指定

9施設

- ・ 神石高原町活性化情報センターほか8施設

道路路線の認定・変更・廃止など

11路線

過疎地域自立促進計画の変更

辺地計画の策定

- ・ 新坂地区の総合整備計画の策定

人権擁護委員の推薦

- 宗田秀信さん
- 中西朝江さん
- 東 幸子さん

平成25年3月議会予算議案に対する議員の賛否一覧表

		平成25年度予算										平成24年度3月補正予算			
		一般会計	特別会計									病院	一般会計	特別会計	病院
			国民保険	高齢医療	介護保険	簡易水道	飲料水施設	集落排水	総合開発	分収育林					
議長	木野山孝志	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
副議長	小川清治	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議員	片山元八郎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議員	藤田晃己	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議員	村上克朗	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議員	松本彰夫	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議員	丸山達夫	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議員	寄定秀幸	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議員	久保田龍泉	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議員	橋本輝久	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議員	横尾正文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議員	妹尾幸太郎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議員	横山素子	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議員	赤木俊二	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

「財政基金」2億円・「減債基金」1億4000万円を積立て

平成24年度 一般会計補正予算

単位：万円（四捨五入）

費目	補正	補正後	主な内容
議会費	-	8899	
総務費	▲7725	16億1290	かがやきネット管理運営経費▲2300 定住促進対策事業▲700 源流の里維持再生事業▲790 未来創造支援事業▲1062
民生費	▲4043	17億4395	メルシーサンワ空調・屋根・非常階段2250
衛生費	2457	10億5378	狂犬病対策事業25 病院事業会計補助経費4355
農林水産費	408	9億1078	有害鳥獣駆除対策事業▲146 林業再構築事業▲1932 林道大畠線改良工事（国の元気臨時交付金）3877
商工費	100	1億3991	仙養ヶ原森林公園雪害木除去100
土木費	8674	6億1059	橋梁・トンネル長寿命化点検（国の元気臨時交付金）3200 小畠バイパス▲571 町道時安線（国の元気臨時交付金）6366
消防費	1406	4億2119	非常備消防一般管理経費（退団報奨金等）1555
教育費	▲524	18億3713	神石小学校給食棟▲510 統合中学校建設事業936
災害復旧費	▲3495	1億7427	現年発生農地・農業施設災害補助復旧事業▲2334 現年発生道路橋りょう災害復旧事業▲1160
公債費	▲1155	19億7107	長期債元金・利子償還経費、一時借入金利子▲1155
諸支出金	3億4530	13億3115	財政調整基金積立経費 2億 減債基金積立経費 1億4600
予備費		4000	
合計	3億633	119億3571	

平成24年度 3月補正予算

一般会計では3億633万円増額され、総額119億3571万円となりました。一般会計補正予算の主なものは、財政調整基金に2億円、減債基金に1億4600万円の積立です。特別会計などを含む全会計の総額は163億6477万円となりました。

主な補正内容

**病院事業会計
指定管理者へ
6102万円など追加補正**

一般会計・特別会計・病院事業会計補正予算 単位：万円（四捨五入）

会計名	3月補正	補正後予算額
一般会計	3億633	119億3571
特別会計	国民健康保険	△1330 12億991
	後期高齢者医療	△2975 3億9361
	介護保険	△1885 19億902
	簡易水道事業	△2325 3億4646
	飲料水供設事業	3675
	農業集落排水事業	1200 2億6845
	分収育林事業	10
	総合開発事業	△4031 3710
	特別会計計	△1億1346 42億140
病院事業会計	4566 2億2766	
合計	2億3853 163億6477	



神石小学校 給食棟施設内

あなたの声を町政に

質問時間は、答弁を合わせて
一人二時間以内で一問一答方式



横山 素子 議員

問 AED設置の予定は

答 早い段階で配備したい

Q 観光施設へのAED配備とあるが、具体的にどこへ設置するのか。また、その他の町有施設への設置計画はあるのか。

A 町長 トレイルセンター（神龍湖）とスコラ高原、仙養ヶ原の3カ所の設置を予定している。今後は、多数が利用する町有施設や産品市場などへ整備が必要と考える。

Q 町全体へ設置が行き届いたら住民の皆さまへ周知が必要ではないか。

A 総務課長 ホームページなどで周知したい。

森林セラピー事業の具体化は

Q 森林セラピー事業の開始にあたり、さまざまな環境整備が必要になってくると思う。具体的な事業内容とメリットは。

A 町長 森林セラピー基地として「帝釈峡スコラ高原」・「仙養ヶ原ふれあいの里」を今年1月に認定申請している。8月から9月に生理実験を行う予定だ。現状の環境のままで行うため、早急な環境整備を行うことは考えていない。

町として、誰もが気軽に健康づくりや癒やしを体感できる基地を目指し、観光客の集客につなげたい。

Q 住民と行政が一体となつて一人一人が自分たちの森を守り、森をきれいにするという意識を高めれば、一層意義深い事業の取り組みになると思う。

今後、住民へ森林整備や森の清掃などの協力を呼びかけてはどうか。

A 産業課長 協議会設立後、住民へ周知し協力を呼びかけたい。



AEDとは
自動体外式除細動器
電気ショックを与え心臓の働きを戻すことを試みる医療機器

Q 中国の大気汚染の影響が、森林セラピー基地認定に影響があるのか。

A 産業課長 今のところ認定に影響はない。

国際都市姉妹縁組の取り組みは

Q 中国の大気汚染の影響が、森林セラピー基地認定に影響があるのか。

A 産業課長 今のところ認定に影響はない。

Q 中国の大気汚染の影響が、森林セラピー基地認定に影響があるのか。

A 産業課長 今のところ認定に影響はない。

ただし、多少大気汚染の影響はあると思うが、自然豊かな森林をいかした癒やし効果があると思う。

A 町長 提携する事により経済・教育・観光の振興が図れる。相手先は現段階では未定。

Q 姉妹都市との交流に、ホームステイなどを取入れる考えはないか。

A 教育長 語学だけでなく、その国の生活習慣や文化を体験する意味でも検討していきたい。

Q 中国の大気汚染の影響が、森林セラピー基地認定に影響があるのか。

A 産業課長 今のところ認定に影響はない。

Q 中国の大気汚染の影響が、森林セラピー基地認定に影響があるのか。

A 産業課長 今のところ認定に影響はない。



妹尾 幸太郎 議員

問 20年後の人口は

答 40%の減少と予測

Q 地域を支えてこられた昭和一桁世代のリアタイアが始まり、地域が維持できるか強い危機感を抱いている。

20年後の人口動向は。また、どのような課題が予想されるのか。

A 町長

町独自の推計では平成45年には、6097人で現在より約40%の減少、高齢化率は50%と予測される。

とくに限界集落といわれる地域では、世帯数が減少し、集落として成り立たない状況が想定できる。

国などの施策を注視しつつ、独自の取り組みが必要となる。

地方財源の充実を

Q 地方交付税に依存している町の財政は人口減少により一層厳しくなる。

税制と交付税制度を見直すなど、国に地方財源の充実を求めることが必要では。

また、行政の見直しを行い、町民と新しい負担、協力関係の構築が必要では。

A 町長

交付税によって財政運営は大きく左右される。現在の交付税制度は過疎化が進む自治体には厳しく同様な町村と連携し、交付税の充実を要望していく。

今後、小さな行政に向かうことから、行政と住民が話し合い、補完しながら町を維持していくことが重要で、その形態や手法など検討を進めている。

農林畜産業の振興は

Q 農林畜産業での生活できる基盤整備が持続可能なまちづくりの基本である。

トマト・ぶどう・高原野菜・花栽培など、元氣な農業の動きが始まった。

また伝統あるこんにゃく、神石牛などを県下随一のブランドに仕上げるとともに、林業も振興し人口の過半が生活できる産業にすべきである。

そうすれば、生活サービス、教育・文化、医療・福祉サービスも充実し、交流人口の増加につながる。

基幹産業である農林畜産業の再活性化についての考えは。

A 町長

まちの基幹産業である農林畜産業で安定産業になれば若者定住、人口の増加につながる。

昨年3月に「赤と黒のプロジェクト」農業振興ビジョンを策定し、集落法人などがけんいんする産



飼育される繁殖牛（和牛の里）

地の育成、新規就農者などの育成、農地の流動化などを柱とする取り組みを進めている。

今後西油木にトマト団地の造成（町営の観光農園併設）、ぶどう作付けの推進、高原野菜の推進、「和牛の里」団地を中核とした飼育頭数の拡大などを積極的に推進したい。

林業も施業の集約化でコスト削減を推進したい。また里山の活用も視野に入りたい。

問 今後の交付税減少の対応は

答 3つの過剰の解消に取り組む



横尾 正文 議員

Q 平成25年度から交付税が年々減少し、平成32年度には平成24年度比で約18億円減少すると予測される。現在のサービスを落とさないための具体策は。

A 町長 財源と職員が減少する中で現在のサービスの維持には限界がある。引き続き3つの過剰（債務・人員・施設）の解消に取り組む。実質公債費比率が15%となり安心した面があるが、今後さらに繰上げ償還や基金の積み立てによって将来に備える。

またさらなる行財政改革に努め、過疎化に歯止めをかける政策を行っていく。

粗大ごみの処理対策は

Q 粗大ごみの処理対策は。

- ①粗大ごみの収集状況は。
- ②処理能力には余力があるか。
- ③不法投棄の状況は。
- ④拠点収集はできないか。
- ⑤地域での回収活動は。

A 町長 ①平成22年度から直接搬入にした。

②最終処分場には余力がある。

③以前より減少しているが、昨年4月から12カ所で4.1トン回収。

④支所での対応が難しい。また排出者責任を明確にするため直接搬入とした。

⑤独自に回収し、休日に搬入している地域もある。

Q 直接搬入の約半分が三和地区である。

クリーンセンターから遠距離にある地域は、搬入が困難であるため拠点収集できないか。

A 環境衛生課長 遠距離にある地域は、以前から搬入しにくいという声は聞いている。

公衆衛生協議会からいくらかの費用をみながら回収に協力してもらっている地域がある。

公衆衛生委員を通して周知をしているが、実績は、若干であるため啓発活動に努めていきたい。

道徳教育の推進を

Q 教育行政方針の中の道徳教育について、具体的な内容は。

A 教育長 三つの点を重点に取り組む。

- ①小学校5年では町内合同での体験活動。中学校では職場体験。
- ②家庭や地域との連携、道徳の時間を公開し、



クリーンセンター神石（切田地区）

協力と理解を得る。③道徳教育推進協議会の充実。その中で3つの柱を定めている。

Q 道徳教育の一環として日本の偉人などを取り上げることで日本人として誇りを持って、人間形成に役立つと思うが、取り入れることはできないか。

A 教育長 このことは道徳教育に大きくかわってくると思われるので、推進していくように指導していく。



橋本 輝久 議員

問 地域おこし協力隊員の増員目的は

答 若者の定住とパワーに期待

Q 地域おこし協力隊員は、自治振興会・行政・集落支援員と連携をし、地域支援活動や、隊員自身の定住に向けても取り組んでいます。2年間の成果と、4人の増員による地域活性化の取り組みは。また集落支援員の活動状況と、3年目の取り組みは。

A 町長

地域支援での成果は、源流の里しんさか・上豊松自治振興会で、都市農村交流事業などの実施に結びついている。

また2人も定住を強く希望しているが、受け皿としての環境整備が今後の重要課題だ。

増員の目的は、
①都市部からの若者の定住。

②外部からの視点と若者のパワーを生かした地域活性化。



地域おこし協力隊活動（神石高原マルシェにて）

具体的な活動については、地域支援や特定のプロジェクトにかかわるものを検討している。

集落支援員については、24年度で2期目が終了する。26の自治振興会が共同で地域づくりに取り組んでいる。

実態調査や計画策定などの取り組みが進捗している。

地域計画をさらに具体化するため、集落支援員制度を一年間延長する。

仁吾川発電所の再興は

Q 仁吾川発電所の再興は。

A 町長

事業開始に向けての取り組みの検討した結果、改修経費に1億円程度要し、ランニングコストに問題があり、現時点では着手できない。

Q 先人たちが、苦勞に苦勞を重ねた施設だ。その功績を後世に必ず残さなければならぬ。

再稼働が困難であるならば、教育資源、観光資源および地域の活性化のために、周辺整備を進めるべきでは。

A 町長

小学生が遠足場所として電気ができるまでの工程など、社会教育資源としてならぬかの周辺の整備をしていく必要がある。具現化していきたい。

観光振興は

Q 広島県デスティネーションキャンペーン事業の取り組みは。

A 町長

広島県において、本年度7月から9月中に各市町の観光コースをJＲと協賛で観光商品化する事業である。

事業主体は観光協会であり、新年度200万円の補助金を計上している。町では、福山駅・仙養ヶ原（こんにゃく作り体験学習）からとよまつ紙ヒキタワ（体験学習）から福山駅のコースを企画。

また、期間中を中心に「幸運仏」「紙ヒコキタワー」を「恋人の聖地」として登録を行い、縁結び弁当の開発（3月にコンテスト実施）販売や、カップル・親子を対象としたスタンプラリーなど予定している。また182ステーションでの観光案内を行い、観光タクシーによる観光周遊も予定している。

問 神石中学校跡地活用を

答 地元から積極的に提案を



久保田龍泉 議員

Q いずみ保育所の建設は、新町建設計画にのせてある。過疎計画にはのせてないがなぜか。

A 町長
財政難であり、いずみ保育所は当面修繕していく。

Q まわりに高齢者の施設ができ進入路がせまく危険だ。

A 町長
また、園児が多くなり施設や広場がせまくなつた。老朽化しており、この際中学校跡地に移転してはどうか。

A 町長
跡地の利用については決定したものはない。

Q 高齢者の住宅や冬季限定の住宅活用は。また介護施設誘致の考えは。

A 町長
活用は検討中であり地元から積極的に提案してほしい。住宅は充足しており高齢者住宅は考えていない。

Q 居宅利用者は計画を上まわり100人程度待機者がおられる。グループホームをユニット誘致すれば介護保険料が一人あたり1000円前後上がり、現状では困難である。

A 町長
いつ頃、地元の要望を聞いたのか。

Q 2月に建設委員会を開き要望のとりまとめ方を協議した。

A 町長
自治振興会長に要望のとりまとめをお願いしている。

Q 自治振興会長に丸投げするのではなく、教育委員会として地元に出向いてはどうか。

A 教育長
4月に説明会を地元で行う。

Q 校舎、寄宿舎の耐震性はどうか。強度不足の場合、補強は可能か。

A 教育長
校舎は補強が必要。寄宿舎の耐震試験は、実施していない。

福永地区に 水道整備を

Q 福永地区には学校などの公共施設、公益施設が集積しているが、上水道はまだ未整備である。

A 町長
平成18年アンケート調査されたが、加入希望が低く見送られた。渇水期には、節水、水運搬などで苦勞されている。生活環境整備が必要だ。

県道改良の 優先順位は

A 町長
簡易水道は不要とのことだった。個別で対応してほしい。

Q 県道改良について県へ要望されているが、改良の優先順位はどうやって決められるのか。

A 建設課長
県は道路整備計画に沿って整備している。

Q 中学校統合によって通学路線になる牧油木線、高光草木線の改良が急がれるが。

A 建設課長
高光草木線は予算がついており事業実施する。牧油木線は、重点路線として要望している。



退所した11人の子どもたち（いづみ保育所）



寄定 秀幸 議員

問 成長戦略として何に「投資」するのか

答 若者の雇用、働く場の確保が最重要施策だ

Q 合併から今日までの集大成としての「きめ細やかな予算編成」は大いに評価したい。

A 町長 財政健全化を堅持しつつ、「未来創造」の成長戦略として、何に「投資」するのか。

A 町長 若者が夢と希望を持ち、安心して子育てができる環境作りの実現に向け、「雇用創出と働く場の確保」を最重要施策として取り組む。

より積極的な雇用対策を

Q 起業家支援や中小企業支援と併せて、より積極的な雇用対策に取り組むべきでは。

A 町長 施設園芸農業での水耕栽培の取り組みや企業のニーズに合わせた工場設置での企業誘致など、もっと積極的な雇用対策を推進すべきでは。

A 町長 先進事例など研究検討したい。

ワクチン接種を町内医療機関で

Q 3ワクチン（ヒブ、小児用肺炎球菌、子宮頸がん）は25年度より定期接種となる。

A 町長 産科・小児科のない本町は、町内医療機関で接種できる体制整備をすべし。

A 町長 町内で接種が可能となるよう医師会と協議中である。

また、町立病院で小児科の研修を実施するなど対応をする。

動物愛護事業の取り組みは

Q 「殺処分ゼロ」をめざす「動物愛護事業」の経過と課題そして今後の展望は。

A 町長 今までに34頭を保護し、9頭は新しい飼い主へ、3頭は元の飼い主に返還された。成犬の飼い主が見つかりにくいのが課題だ。今後は、野犬が増えないよう飼い方教室や譲渡会のイベントを実施する。今年度から、新たに犬・猫の不妊・避妊補助を実施する。

脳脊髄液減少症の周知を

Q 交通事故やスポーツ外傷などが原因の「脳脊髄液減少症」についてホームページなどで周知すべきでは。

A 町長 まちづくり推進課長 検討したいと思う。

Q スポーツ外傷など学校での事故が原因で不登校やいじめの原因となっている場合もあるが、学校での取り組みは。

A 町長 教育部 文部科学省から通達があった。スポーツ外傷などにおける脳脊髄液減少症の適切な対応について教職員への周知を小中学校長へ指導した。事故防止に努めるとともに、事故後は医療機関への受診など細心の注意を払っている。保護者やスポーツ指導者などへ周知・啓発する。



仙養ドックランの犬舎完成

**問 『協働のまちづくり』
25年度以降の取り組みは**

答 29年度から本格的な運用を



丸山 達夫 議員

Q 住民と行政による協働のまちづくりは、実行、行動に移す時期と考え、町長の「県下で一番住んでみたい理想郷づくり」実現に向け、地域で出来ることは地域住民で、自分達の地域は自分達で守るという将来を考え、政策を基にして、学校統合と基金の積立を行なっている。

また協働の研修会などを重ね集落支援を設けて、すでに地域おこし協力隊員と一緒に活動している自治振興会もある。

しかし条件・状態・状況に差があり、苦慮して

る自治会もあり、行政主導で25年度から実施・行動に移す時期と考える。町長としてどのように取り組まれるかがう。

A 町長

まさにこれからは、『明日は今日より悪いかもしれない』という時代に突入してきていると認識している。

今後、将来を思う気持ちと地域を守るとの思いで、それぞれが行動することが、官と民に必要なある。

また研修会・アンケートなどからも役割を決めて、まちづくりを行うとの意見が半数を超えている。25年度以降において、協働という考え方を形にしていく。

支所レベルで中間支援を行い、組織を位置づける事を検討している。

「協働」とは

Q 「協働」とは地域の提案に行政が財政支援をするという事。

そこで町道の草刈りも協働の一環と思うが、このような事業を各課でまとめ、地域に提案し、できる事に取り組んでは。

A 町長

各課で何ができるか、実行すれば業者委託が減り、雇用の場の確保もあるので調整して行う。各課の英知を結集するのは良い事である。幹部会議を経営戦略会を担当課で進めていく。

A

まちづくり推進課長 協働のまちづくりの考え方は補完性の原理で、互いが補い合い、互いができないことをやっていくことと理解している。

経営戦略会議で形にしていく提案をしている。行政の業務に関わる協働の部分は支所レベルで、支所を中心に公民館、自治振興会が入り、色々決めるシステムを考えている。

全体のことで、住民に関わることに分けて形にしていく。

25年度から具体的構想を考え、27年度から試験的運用を、29年度から本格的運用を考えている。



集落支援員会議（地域おこし協力隊員とともに）



松本 彰夫 議員

問 保育所の指定管理は

答 来年度からの実施に向け、検討する

Q 保育所の指定管理を26年度から導入すると言われているが、具体的な検討は。

A 町長 所管課において導入に向けたスケジュールを作成し、具体的な検討に入る。

Q 管理の目的は、保護者のニーズに 대응するため、臨時職員の待遇改善と言われたが、町営でも、勤務体系の見直しなどで対応できる。臨時職員の待遇も必ずしも改善できるとは限らない。

神石高原町の二次世代

育成支援行動計画」では、町立保育所の充実を掲げているが整合性は。

A 町長 結果として整合性はとれる。

Q 保育所の職員は、専門家の立場で、保育・子育てのニーズや変化を感じ取りながら働き、障害児、生活支援など多くの配慮や行政対応にも直営だからこそ迅速に対応できるのではないか。

A 町長 指定管理になっても、町営だから対応できる。

Q 保護者や地域への説明会はどのようするか。

A 町長 保護者や地域の理解は不可欠なので、指定管理者の選定、引継ぎ、職員体制などを精査し、説明会を開く。

Q 指定管理の募集要項は。

A 福祉課長 今後、募集要項を策定し準備などを決めていく。

Q 指定管理ありきでなく、十分に検討され、慎重に対応することを要望する。

交付税の減額措置は

Q 政府は地方公務員の給与削減を条件に交付税の減額を求めた。このことは、地方自治の根幹に係る重大な問題である。

A 町長 職員給与は自治体が自主的に決めるものである。地方は今まで給与の削減など行っている。国が今まで行わなかったつけを交付税のカットに求めるのはいかがなものかと思う。

道路網の整備は

Q 道路は優先度の高い道路から整備すると言われたが、旧町村を結ぶ周回道路の整備計画は。

A 町長 整備計画は現在できていない。国・県の補助事業に該当する路線を優先的に実施している。

Q 油木豊松線は、周回道路になっている。改良計画は。

A 町長 豊松地区の仁川谷線も完了するので、油木と豊松を結ぶ路線として念頭に置いて、この路線の改良に取り組みたい。



退所した9人の子どもたち（油木保育所）

問 本町への元気臨時交付金は

答 対象交付金は4400万円



村上 克朗 議員

Q 国の大型補正予算総額は13兆1000億円、そのうち地域の元気臨時交付金(地域経済活性化・雇用創出臨時交付金)は1兆3980億円である。
A 本町の補正・新年度予算に、どう活用されているのか。
町長 本町では元気臨時交付金に該当する事業が少ないので、4400万円である。



荒廃が進む農地

Q 他の多くの補正予算枠でも道路以外に該当する実施可能な予算は。
町長 新規事業の設計や用地交渉など期間が短く検討できなかった。

Q 国の補正予算に対して、積極的な予算要望になるように知恵を出したのか。
町長 要望に対して今後は全庁で検討する。

職員の給与改正・退職金のカットは

Q 政府は2013年度の地方公務員給与とを国家公務員並みに引き下げ、また、退職金も一律カットする方向へ要請している。本町の対応は。
町長 交付税の減額は約2000万円の影響がある。過去の給与カットによって1億3000万円

あまりの削減額がありません。平成18年給与構造改革の際に国や県は4.8%の減額分をラスパイレース指数の算定にはいらない地域手当をしない県内の状況を考慮する。

退職金は市町統合事務組合で、3年間で17%カットする人事院勧告に基づいて実施している。

Q 本町では24年度の一般行政職のラスパイレース指数は、全国町村平均でどれくらいか。
総務課長 国の引き下げ前では96.6、引き下げ後では104.6になる。県内では中段より下、類以団体で見るとやや高い。

Q 給与削減の時期は当初予算かどうなのか。
町長 6月までに方向性を出した。

中山間地域直接支払事業の効果は

Q 交付金が適正に効率よく使用されているのか。
町長 50%は個人配分もできる。適正に使用され、農地の荒廃防止や人づくりに効果がある。

共同使用の機械利用や水路・農業施設の改修を目的に前向きに積み立てをしている地域もある。

Q 自立できる農業に向け、優良農地の有効利用を進め、農業経営者の育成が必要である。
町長 農業法人の広域連携を図り、担い手確保は「人・農地プラン」を推進する。

※ラスパイレース指数
 国家公務員の給与を100とした場合の地方公務員の給与水準を示した指数



藤田 晃己 議員

問 緊急経済対策の 受け入れ体制は

答 対象事業が少ない

Q 日本経済の再生に向けた13兆1000億円の国の大型補正予算で神石高原町で取り組む事業、事業費は。

A 町長
対象となる事業は比較的少なくその中で、①社会資本整備交付金事業（町道時安線改良工事）②ストック総点検事業（トンネル・橋梁）③林道大島線改良工事④県営ため池整備事業（神谷池・切畑池）など1億3000万円あまりの事業を計上している。

防災・減災対策 を早急に

Q これからの公共事業は防災・減災対策が中心であると思うが、早急に対策を検討する必要があるのではないか。

A 町長
22年度は橋梁調査。24年度は維持管理計画策定。
25年度は残りの農道・林道・橋の調査をする。

明治橋など 改修工事を

Q 国道182号線に架かる明治橋（83年経過）、長者ヶ原トンネルなど早急に取り組むべきではないか。

A 町長
早急に県へ要望していきたい。

本庁舎の 建て替えは

Q 本庁舎は、56年が経過しており、災害時の避難場所でもあり、早急に建て替える必要があるのではないか。

A 町長
耐震診断の実施については慎重に検討したい。

町立病院 耐震化は

Q 町立病院も築後42年経過しており、新耐震基準には適合していないと思う。建て替えを急ぐべきでは。

A 町長
町立病院の建て替えについては、国の動向も見ながら優先順位を決めて逐次取り組んでいく。

工業団地の 整備は

Q 雇用の創出には町内企業の支援、起業家の育成などもあるが、一方では企業誘致も考えられる。

受け皿としての工業団地の整備は考えられないか。

A 町長
以前の答弁でミニの工業団地を考えてもよいと答弁したが、中山間地の工業団地も売れ残っており新たに造成することは考えていない。
学校などの跡地もあるので、解体して受け入れ体制を整備していきたい。



神石高原町立病院

問 生活用水を確保できたか

答 安定した飲料水の供給が可能



片山元八郎 議員

Q 生活用水（小島地区）は本当に確保できたのか。

A 町長 小島地区簡易水道は平成22年度から24年度にかけて配水管などの整備工事を行った。

その結果、平成22年度末の有収率71.4%が、25年1月末には、94.4%となり安定した飲料水の供給が可能となった。

しかし、宮谷川の水源は、農業用水が主体であり、平成24年度に下流の耕作者から「渇水期においても下流へ水を流せ（過去の覚書あり）」との申し

入れがあった。宮谷川の水をすべて飲料水に供給することはできないが、小島地区簡易水道は、河原郷・光信・大上にも水源を持ち、全体で用水を供給している。給水戸数が現状維持なら当面、小島地区の水源を新たに求める必要はないと判断している。

しかし、水源は永久不変ではなく、自然環境や社会環境の変化に左右されやすく、将来を見越して水源調査も必要である。

工業用水供給整備は

Q 工業用水供給の整備はいつできるか。

A 町長 合併前工場誘致に成功し、その当時の行政の約束ではなかったのか。遅いではないか。

確かに誘致企業は雇用確保に貢献していた。しかしながら以前の議会でも答弁したように、宮谷川砂防ダムは、人家・

耕地・公共施設などを土砂災害から守ることが目的。水を貯めるための補償工事はできない。

二期は、平成12年事業着手、平成18年工事着手から平成27年完了予定。

多目的ダムへ期待

Q 多目的ダムへの期待は幻となった。慙愧に耐えず、住民・地権者を騙した罪は極めて重い。

A 町長 合併前、誘致企業と町当局が、平成15年7月2日付けで交わした覚書の中に『工業用水・生活用水に必要な水源確保の開發支援を行う』とある。現段階で当該企業は事業拡大など、当面ないとうかがっている。

するのかわからないのか

Q 工業用水供給の整備をするのかわからないのか。

A 町長 進出企業の動向を見ながら検討する。



宮谷川砂防ダム

※有収率
漏水の量を示す率



赤木 俊二 議員

問 遊休施設の処分は

答 処分順序を検討して実施

Q 町内には、使われなくなった建物がある。解体処分はいつごろ行う予定か。

また通学路に面したのもあるので安全対策が必要では。

A 町長 解体処分が必要な施設としてゴミの焼却場や木造校舎などがある。

解体経費がかかるため財源の確保をしながらやりたい。

処分順序としては立地場所・老朽度・危険度の高いものから行う。



旧食糧事務所

被害が出た場合の責任は

Q 次年度から青年会へ貸付予定の旧食糧事務所は、入口ひさしのモルタルが剥がれているが修繕管理はどうするのか。また物質的・人的な被害が出た場合責任の所在はどうなるか。

A 総務課長 所有者である町に責任はある。

再度点検などを行い安全の確認をする。解体費用は高額なものとなる。財政的には厳しいが順次解体を考えている。それまでは安全に管理する。

除雪の対応は

Q 今回の大雪で除雪・倒木処理をした業者は人材・機械の不足で処理に時間がかかった。

一時期に比べ除雪ができる建設会社も減っている。

しかし、除雪や、災害時の崩土撤去は依頼せざるを得ない。

こつこつとした建設業の現状に対して町としては何らかの対策は考えているか。

A 町長 除雪機械には少額ではあるが支援をしている。助成の依頼は出てないが考慮しないとイケない。

地域に協力を

Q 地域住民も町・県道にかかわらず生活道の確保のため、主体的に除雪や倒木処理などをしてほしい。

協働の町づくりという観点からも、地域や自治振興会に燃料代の補助や、指揮系統の整備などを行うべきではないか。

A 町長 行政に力がないという状態なら、そこは住民に補完して頂いている。町はそれで逃げられるものではないので、町としても何がしかのことは考えていきたい。

A 総務課長 除雪についてはどういった支援がいいか考える必要がある。地域でできる事は地域ですべてはできない。

レポート

聞き、慎重審議しました。
添え委員会報告としました。

総務 文教常任委員会

不採択 常設グラウンドゴルフ場の移設

昨年12月に審議し、継続審査・調査が必要と判断した。その後2月8日に再度審査した結果、教育委員会と要望団体と協議内容が示され、移設は必要がなくなった。

統合中学校建設中はグラウンドの2/3が使用可能であり、統合後は現油木中学校のグラウンドの半面を芝生化し使用することで不採択とした。

不採択 西油木ライスセンターの移設

常設グラウンド移設の件と同様、昨年12月に審議し、継続審査・調査が必要と判断した。

近隣に、神石高原町立中学校が開校し、子供たちに健康被害を及ぼす恐れがあるなど、2月8日に再度審査をし結果、粉じんは、身体に影響を及ぼすような有害物質はないため、今後飛散防止策を産業課と連携し、防じん対策の研究に取り組み解消することで、不採択



審議中（総務文教常任委員会）

とした。

またライスセンター稼働時には、子どもたちの健康調査などを実施し、万全な対策をとるよう要望した。

不採択

障害者福祉施策の 充実を求める要望書

要望書は3項目あり、

国・県・町への要望となっているため、今回の要望書としては、妥当ではない。以下の項目ごと理由により不採択とした。

①障害者総合支援法の改定についての国への要望は、「障害者総合支援法」の施行が、本年4月からとなっており、内容などを精査研究が必要であるため。
②燃料費の助成は、町としてはガソリン券として対応している。すべての重度障害者には財政的な面で困難と思われる。



ゆき作業所 作業風景

平成25年度活動予定

福祉課

- ・保育所の実態と指定管理による運営について先進研修
- ・病院の指定管理の調査研究や町立病院の今後の在り方について
- ・ゆき作業所の現状調査

まちづくり推進課

- ・協働のまちづくりの研究
- ・地域おこし協力隊および集落支援員と意見交換

教育課

- ・小・中学校の現状についての学校長との意見交換会（道徳授業など）

その他調査・研究

③作業所設備整備へ助成は、大きな設備などは、財政的に無理だが、本年はリサイクル集積場の整備を予定している。

常任委員会

活動

産業 建設常任委員会

委員会として、各関係部署との意見など結果は以下の通りですが、意見、要望を



県道木割谷小吹線改良中

不採択

① 町道奴留田線

② 町道油木豊松線
(宗兼区間)

③ 県道前原谷仙養線

について平成25年
予算計上の要望

① については支所対応によってカーブの切りが行われている。今後も継続を要望。

② については強く要望する。改良計画がある。

③ 部分改良中である。県道は町の権限外である。

不採択

一般県道

木割谷小吹線の

全線早期完成の要望

県道は町の権限外である。現在整備は進行中であり、平成25年度3,200万円計上。

町においても鋭意県と協議している。

採択

野田丸水道施設を

町営施設として

管理する請願

町管理施設としての施設基準を満たしていれば町管理を図られたい。今後は町管理施設とするための受け入れ基準を明確にすること。

不採択

福山地区消防職員

住宅有効利用に

関する要望

以前は消防局職員が居住していたが、現在居住者はいない。

そのため町としても有効活用のため、消防局と協議中。

今後も消防局との問題が発生しないように協議を要望。



審議中（産業建設常任委員会）

平成25年度 活動予定

○産業課

- ・産直市場3店舗の現地調査
- ・農業法人の調査・研究

○環境衛生課

- ・一般廃棄物処理場調査
- ・産業廃棄物処理場調査

○その他調査・研究

追跡 ありゃあどうなったん？

自然食レストラン『高原の風』4万人が来店

自然食レストラン「高原の風」は、平成23年9月17日にオープンした。

多くの人を呼び込む仕掛けとして、町と施設を管理運営する(有)さんわ182ステーションが連携して取り組んだ結果、玄関口として道の駅全体の利用客も大幅に増加した。

レストラン「高原の風」は、オープン後1年間で約4万人が来店し、道の駅の産直売り場などの利用客拡大に貢献している。

最近も休日には入店待ちの行列ができるほどの人気ぶりだ。



いろいろな料理がならぶ自然食レストラン

運営主体のNPO法人「地域再生プロジェクト」は、地元のおばちゃんを中心に、5人の正規社員と、5人のパートを雇用しており、職場づくりの面で成果を出している。また地域活性化を大きな目標としており、レストラン運営の中で様々な地域貢献活動を行っている。

昨年は、豊松小学校で栽培した丸豊トマトを使った児童レストランのメニューづくりを支援した。またレシピの作成やレストランでの試食会の開催など、地域や学校と連携した取り組みを行っている。

議員発議

1. 「議会広報常任委員会」を設置

町民の皆さんに町議会の活動をより理解・周知していただくため、神石高原町議会委員会条例の一部を改正し、新たに「議会広報常任委員会」を設置することにしました。

2. 議員報酬の減額規定の新設と費用弁償規定の改正

議員の報酬および費用弁償等に関する条例の一部を改正し、①議員が自己都合、疾病その他の事由により、本会議や委員会を長期間欠席した場合、報酬、期末手当を減額する。

②閉会中の委員会開催日の費用弁償は日額600円に改正。

3. 公聴会開催、参考人招致の規定を整備

地方自治法の一部改正により、本会議で公聴会の開催、参考人の招致が可能となったため、神石高原町議会会議規則を改正し、制度活用を図ることにしました。

4. 配合飼料の価格高騰対策を求める意見書採択

配合飼料の価格高騰は、畜産・酪農に深刻な事態であり、十分な財源確保、経営安定対策の充実、飼料自給率向上対策を求める意見書を採択し、政府に提出することにしました。

《第16回議会クイズ当選者》

油木地区	岩畦フミコさん
油木地区	池田 洋子さん
神石地区	圓道 明裕さん
神石地区	藤田 文高さん
豊松地区	羽場三佐子さん

訂正とお詫び

みんなの町議会第33号において、選挙管理委員会委員、政宗武幸さんのお名前に誤りがありました。お詫びし訂正いたします。

第1回議会報告会を開催

～開かれた議会をめざして～

- 開催者 神石高原町議会
- 参加者 各地区の町民の皆さん
- 報告内容
 - ・神石高原町議会基本条例の概要
 - ・定住関係施策の概要と議会の取り組み
 - ・産業振興施策の概要と議会の取り組み
 - ・その他
- 日時 別表のとおり
開催時間は各地区とも19時から21時。

開かれた議会をめざして、神石高原町議会は昨年の9月定例会で「神石高原町議会基本条例」(平成24年10月1日施行)を定めました。

この条例では、議会の説明責任を果たすとともに、町民のみなさまの意見などを議会運営に反映するため、議会報告会を開催することを規定しています。

この規定に基づいて、次のとおり各地区で報告会を開催します。皆さんの積極的な参加をお願いします。

地区	日時	場所	所在地
豊松	5月13日(月)	陽光の里文化ホール	上豊松1755-1
油木	14日(火)	油木コミュニティセンター	油木乙1858
神石	15日(水)	総合交流センター じんせきの里	高光2116-10
三和	16日(木)	三和公民館	小島2025



しだれ桜満開(宗兼地区)

まちの声

多数のご意見ありがとうございました。
今月号から、ご意見にお答えします。

○議会広報を読んで参考にしました。
今後とも頑張ってください。
(63才 女性)

○多くのみなさんに読んで頂けるように今後も努力してまいります。
(88才 女性)

○福祉のお世話になっております。老人介護施設へ入所できる人数を多くして頂きたいと思えます。
(89才 女性)

○介護施設を増やせば介護保険料の増額につながるの施設を増やす事は難しいです。高齢化率が進む我が町には欠かせない福祉事業には今後もしっかりと目を向けて行きたいと思えます。
(74才 女性)

○女性議員さんに夢と希望の持てる現実になづくように新風を期待しております。
(80才 男性)

○ご期待に添えるよう努力します。

○小島のバイパス工事が進まない。国も公共事業を進めると言う。予算が下りて少しでも早く完成する事を祈ってます。
(男性)

○平成25年度から工事が再開予定です。

○三和病院に時折で良いから耳鼻科がほしい。(89才 女性)
○全国的な医師不足の中、新たな診療科目の設置はむずかしい状況です。

○議会だよりで議会の一般質問を読ませて頂きました。議員さんよりいろんな観点での質問が出されいかにして神石高原町を活性化するかについて、活発な意見交換がなされていて、頼もしく思いました。おおいに頑張ってください。

○今後も町の活性化の為に努力して参りますのでご意見などお聞かせ頂ければ幸いです。

元気なグループ紹介だよ



黎明会

上自治振興会 あけぼの班

上自治振興会のあけぼの班は、小田川の上流に位置し、初夏には沢山のホテルが乱舞し、安土桃山時代に建立された町重要文化財の光末清龍神社もあります。最近では、カイハラ産業が進出し地域の活性化に貢献している地域です。

黎明会は、あけぼの地区の有志20人で昭和46年に発足して以来、長きにわたり、先輩方の継続は力なりの伝統を引き継ぎ、メンバーの団結の力で会を続けておられます。

現在14人のメンバーで、とんどや運動会などの地域の行事はもとより、豊松地区での荷車レースには、初回大会より参加しており、三和地区駅伝大会にも第1回大会より、連続出場を果たし、昨年の第45回大会では、町内第3位の成績を収められ、正しく、継続は力なりの伝統を守り続けていくとことです。

また、地域の環境美化・保全に努めておられ、これからも毎月集会所で定例会を開き、連帯を深めながら、地域の発展のため、粘り強く活動していこうと決意されておられます。

地域での協力しあう体制や続けることのむずかしさなど、メンバーの団結力の強さを感じました。これからも地域のためにがんばっていただきたいと思えます。

取材者 小川清治副議長

第17回 議会クイズ

《クイズ》空欄に適切な言葉をいれてください。

①平成25年度 一般会計 〇〇億5000万円

②一般質問 〇〇〇設置予定

③一般質問 〇〇〇指定管理

④第〇回議会報告会 開かれた議会をめぐして

⑤グループ紹介 黎明会

《ヒント》議会広報をよく読んでね。

《応募方法》

ハガキに「答え・住所・氏名(ふりがな)・年齢」議会への要望・ご意見なども記入してください。

正解者多数の場合は厳正な抽選により、5人の方に1000円分のやまなみ商品券をお送りいたします。

応募は、1人・1通に限らせていただきます。

《あて先》〒720-11522

神石高原町小島二〇二五神石高原町議会事務局 「第17回議会クイズ係宛」

《締め切り》5月10日(金) 消印有効

《個人情報取り扱いについて》ご記入いただきました個人情報は、賞品発送および『まちの声』などの目的以外には利用いたしません。

議会を傍聴してみませんか 次回の定例会は6月です

日程は告知放送などでお知らせします 一般質問はケーブルテレビ放送します

編集後記

春の陽気とともに、桜の花も満開となり、気分あらたに平成25年度がスタートしました。

さて、3月定例会で議会広報広聴調査特別委員会から、議会広報常任委員会となり、大きな責任を感じています。

新人議員3人を含め5人体制で「みんなの町議会」を、取材し編集や校正まで、パソコンなどで、作成しています。今月号から、少し表現や校正などを変えてみました。読みやすく、わかりやすくをモットーに誌面づくりを考えています。皆様のご意見などお聞かせください。

また5月には、議会基本条例に基づき、開かれた議会を目指すため、議会報告会の開催を予定しており、多数のご参加をお願いいたします。(橋本)

議会広報常任委員会

- 委員長 橋本 輝久
- 副委員長 横尾 正文
- 委員 妹尾幸太郎
- 委員 横山 素子
- 委員 赤木 俊二

■住所／広島県神石郡神石高原町小島二〇二五

TEL 0847-89-3340

FAX 0847-85-4201